ゆとり世代の叱り方・教え方Q&A（第8回）

「靴がボロボロ」「興味が狭い」どうすればいい？

2016.11.09

ゆとり世代の叱り方・教え方を具体的なケースで学ぶ連載の第8回。靴がボロボロなど外見を気にしない、興味の幅が狭く話題づくりに不熱心な場合の対処法です。

Q
新入社員の靴がボロボロなので、きれいにするよう注意しました。すると「お金がなくて買えないので、仕方がないじゃないですか」と言います。そういう問題ではないと思うのですが…。

A 「お金がない」ことの責任にしています。仕事の場にふさわしい姿勢や格好をする大切さを教えましょう。

【対処法のポイント】
「お金がないから、仕方がない」というのは自分の理屈であり、この場合もまた、「周囲が自分をどう見ているかが大切である」という判断基準が欠けています。



本人もボロボロの靴を好んで履いているわけではないでしょう。一方で、「髪型や服装は自分の自由じゃないか」「給料をたくさんくれない会社が悪い」といった、心の奥にある気持ちも関連しているかもしれません。

たとえ話として、次のようなものはどうでしょうか？

――病院の院長が「肺炎ですね」と患者に告げてカルテを書き込んでいました。そのときのペンに、キャラクターが描かれていたら…。火事のとき、消防隊員がゆるキャラの描かれたTシャツを着て現場に来たら…。

いかがでしょうか？仕事の場では、それにふさわしい格好や姿勢があることを、例を出しながらゆとり世代に教えてください。

仕事で初対面の人に、そのボロボロの靴はどう思われるでしょうか。「自分に対して、きちんとした格好で接する気がないんだな」と思われたら、ビジネスはその時点で終わりです。そこまでいかなくても「だらしないな。仕事に対してもそうなんだろうな」と思われるのは間違いありません。

いつもアイロンのかかったシャツを着て、靴をきれいに磨いているほうが、取引先はもちろん、上司や先輩をすがすがしい気持ちにさせ、結果として自分にとって得であると教えましょう。

●まとめ

服装は「周囲にどう評価されるか」の基本になる。

Q
営業の話題づくりとしてはやりものの知識は欠かせません。しかし、最近の新人はモノを知らなすぎます。指摘すると「はやりものに便乗するのって、何かみっともないじゃないですか」と言ってきます。

A … 続きを読む